

一 序 言

昭和二十一年八月十四日!! 聲淚共に下る御聖断を拝してより
過ぐる八日星霜の今次大戦も遂に其の終末を告げ、吾國は史上
未曾有の一大變革期に突入した。

戦後の虚脱混迷状態に於て國民最大の関心事は終戦處理就中
在外同胞数百万の復員引揚問題であった。

波濤萬里、南溟北疆の各地に散在する同胞の收容こそは嘗てない
困難と障碍を伴つてゐる大事業である。

開局以來滿ニケし年復員收容者約三十萬と言ふ数字が示す如く
不完全ながらも此の大事業の一部を成し就げた感懷は亦無量なる
ものがある。

今開局以來の足跡を顧みて將來何等かの資に供した。